

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題4	新しく開院する公立東濃中部医療センターでは慢性期病床が20床としているが、統合前の土岐市立総合病院、東濃厚生病院共に慢性期病床はなかったため、この必要性はあるのか。	既に土岐市立総合病院で地域包括病棟をやっており、それをそのまま継承した形の病棟構成となっている。（東濃厚生病院） 慢性期病棟について標榜はしていないため、資料に記載がない状態となっている。（東濃中部病院事務組合）
2		緩和ケア病床は現在はやっているのか。 新しい病院での緩和ケアの先生の目途は立っているのか。	病棟としてはやっていないが、外科病棟内など一部では行っている。病棟という形では行っていない。 医師については2人目途が立っている。
3		新病院ができるとそこに医師や看護師、その他の医療従事者が集まってしまう、他の病院の人手を吸収してしまう可能性があるが、それに対してどのように考えているのか。	新病院でも医師不足の問題があり、十分に足りてとは思えないため、大学の方に働きかけているところである。多治見や中津川も同じ状況であり、医局を介することになるため、取り合いになることは考えにくい。
4		新しい病床数、新しい統合診療科がある中で、医師は現段階で充足できている状態なのか。	医局からのサポートがある程度もらえるという前提で要望している。医師不足が完全に解消されているわけではないため、今後も勤務医を集めていく必要がある。
5		全体の病床数が減るため、医師の数も2つの病院を合わせた数でスタートできないのか。病床数がサイジングダウンするのに合わせて医師の数も縮小していくべきではないか。統合を機に事業を拡大しようとすると、人の取り合いになってしまうのでは。	もともと土岐は医師が非常に不足しており、2つの病院を足しても充足しない。新病院の規模をさらに拡大しようとしているわけではない。
6		看護師について、2つ合わせてどれほどいるのかや今後の目標値について、数字で示してほしい。	
7		ベッド数や医療需要、看護師確保などいろいろな問題があるが、10年後を見据えると、400床の総合病院にニーズがあるのか疑問である。 10年先も病床過剰の問題が発生することを心配している。	この件について、継続審議事項とする。
8	議題5	推進区域対応方針について、坂下診療所の話が記載されるべきではないか。	坂下診療所の今後の方向性については検討していくと記載している。 課題は認識できているため、中津川市の進捗状況を確認しつつ、議論していきたい。現在はまだ進展していない状況が続いている。
9		現状の中津川市民病院、市立恵那病院、上矢作病院の病床利用率を鑑みた上で、坂下診療所に病床を作ることが成り立つ可能性はあるのか。	県としては、市に検討をお願いしており、結果を待っている状況である。
10	その他	医療補助者や看護師も非常に減っており、看護師のタスクシフトが難しい現状である。 シフトされる先をどうするのか、具体的に検討していかなければならない。	
11		医療需要に関しては細かく分析できるが、介護需要に関しては大雑把なデータしかないため、厚労省などが調査・公表することで計画が立てやすくなるのではないか。	
12		地域住民にとっても、最小の投資で最大の幸福が得られることが重要であるため、地域医療構想の大きなテーマとして進めていただきたい。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
13		看護職確保について、東濃圏域の看護管理者とワーキングを開催し、一緒になって考えている。若い世代は、今働いている場所でいかに働き続けるかを重視しているため、それを踏まえて離職防止策を考えていきたい。	
14		東濃厚生病院と土岐市立総合病院の合併によって400床のベッドができるが、すべてここで完結される必要はなく、在宅やその他の分野で助け合い、分担しながらやっていくのが将来の形ではないか。	
15	アドバイザー	地域枠の制度について、開始10年の段階で制度を見直し、岐阜圏域以外の場所で勤務するという者が増えてきた。5年前には出身地枠を設け、入学者を引き受けている。勤務に至るまでに数年かかり、長丁場ではあるが今後も引き続き医師偏在対策に協力していきたい。	
16	アドバイザー	勤務医に限らず、医療従事者全般が不足している。アメリカでは、病床も少なくDXが進んでいるが、介護や医療従事者の増加率が増えていることから、医療や介護に必要な医療従事者の不足は日本だけでなく世界的な問題であることがわかる。難しい問題だが、知恵を出し合い議論を進めてもらいたい。	